

関東信越厚生局長 殿

群馬大学医学部附属病院長
野 島 美 子

群馬大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	63.8 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	272人	221人	417.8人	看護補助者	1人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	6人	11人	14.0人	理学療法士	10人	臨床検査技師	58人
薬 剤 師	43人	16人	58.7人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	1人	0.7人	視能訓練士	7人	その他	0人
助 産 師	22人	0人	22.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	598人	48人	634.7人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	4人
准 看 護 師	1人	1人	1.3人	栄 養 士	0人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	166人
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	46人	そ の 他 の 職 員	5人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	615.1 人	12.1 人	627.2 人
1日当たり平均外来患者数	1,777.5 人	77.1 人	1,854.6 人
1日当たり平均調剤数	14,978.3 (933.7件) 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	0人
抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	0人
神経変性疾患の遺伝子診断	4人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	0人
重粒子線治療	89人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	0人
マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	4人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	3人
先天性難聴の遺伝子診断	8人
RET遺伝子診断	0人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	54人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的肺がんラジオ波焼灼療法〔原発性又は転移性肺がん（切除が困難なものに限る）〕	4人
経皮的腎がんラジオ波焼灼療法〔原発性又は転移性腎がん（切除が困難なものに限る）〕	0人
CT透視ガイド下経皮的骨腫瘍ラジオ波焼灼療法〔転移性骨腫瘍（既存の治療法により制御不良なものに限る）又は頰骨腫（診断が確定したものに限り）〕	4人
上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するパクリタキセル毎週静脈内投与併用カルボプラチン3週毎腹腔内投与	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	3人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下膵切除	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いることで切開創は約4-5cmと縮小することができ術後疼痛の緩和および入院期間短縮に貢献できる。			
医療技術名	PNPLA3の遺伝子診断による非アルコール性脂肪性肝炎発症の予測評価	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 PNPLA3の遺伝子多型を測定することにより、非アルコール性脂肪性肝炎の発症・疾患重症度(炎症, 肝線維化の程度)を予測する。			
医療技術名	食道pH・インピーダンス測定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 胃食道逆流症診断のための検査			
医療技術名	小児に対する上部・下部内視鏡検査	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 危険性の高い乳幼児も対象とした、消化管の検査			
医療技術名	小児に対する肝生検	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 麻酔を含め、合併症危険の高い乳児、幼児も対象とした生検			
医療技術名	アレルゲンリンパ球刺激試験による非IgE依存性アレルギーの診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 RAST法で検出できない、食物・薬剤アレルギーの診断			
医療技術名	食物アレルギーに対する急速経口免疫療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食物性アレルギーの新しい治療法 アレルギー抗原除去をせずに食事が取れるようになる。			
医療技術名	骨腫瘍の切除後のパストゥール骨再建	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性骨腫瘍切除後に残る広範な骨欠損に対して、腫瘍細胞を殺して、かつ骨再生能を温存したパストゥール骨による再建術			
医療技術名	I-131 MIBGによる悪性神経内分泌腫瘍の核医学治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 悪性の神経内分泌腫瘍(褐色細胞腫、旁神経節腫瘍、交感神経節腫瘍、神経芽細胞腫などの神経提由来の腫瘍群)を対象として、I-131 MIBG Metaiodobenzylguanidine(MIBG)による核医学治療を行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	2人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	151人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	115人	・原発性胆汁性肝硬変	22人
・全身性エリテマトーデス	129人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	324人	・特発性大腿骨頭壊死症	71人
・再生不良性貧血	129人	・混合性結合組織病	29人
・サルコイドーシス	58人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	222人	・特発性間質性肺炎	22人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	70人	・網膜色素変性症	26人
・特発性血小板減少性紫斑病	349人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	102人	・肺動脈性肺高血圧症	7人
・潰瘍性大腸炎	43人	・神経線維腫症	17人
・大動脈炎症候群	148人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	41人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	40人	・慢性血栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	56人	・ライゾゾーム病	4人
・クローン病	64人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	69人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	18人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	272人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	10人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・後縦靭帯骨化症	50人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	49人	・ミトコンドリア病	15人
・ウェゲナー肉芽腫症	20人	・リンパ管筋腫症(LAM)	7人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	58人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	23人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	6人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	116人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に6回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 42 例 / 部検率 12.84%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遠隔医療技術活用に関する諸外国と我が国の実態の比較調査研究	酒巻 哲夫	医療情報部	10,000,000	補委 厚生労働省
治療抵抗性統合失調症に対する治療戦略のためのデータベース構築に関する研究	三國 雅彦	精神科神経科	15,000,000	補委 厚生労働省
ガドリニウムによる皮膚線維化・皮膚石灰化モデルマウスの作製	石川 治	皮膚科	1,200,000	補委 日本学術振興会
粒子線治療時間短縮を目的とする粒子線ビーム強度高精度制御技術の開発	鳥飼 幸太	重粒子線医学センター	700,000	補委 日本学術振興会
ネラピリン投与患者における細胞内ara-GTP濃度に影響を与える因子の検討	藤田 行代志	薬剤部	630,000	補委 日本学術振興会
メタゲノミクスを用いた病院環境の微生物分布の解析と院内感染対策への応用	徳江 豊	感染制御部	900,000	補委 日本学術振興会
個別化医療の実現を目指した新規迅速遺伝子解析技術の臨床応用	村上 正巳	検査部	3,500,000	補委 日本学術振興会
microRNA (miRNA) のLH作用機序における関与の解明	峯岸 敬	産婦人科	4,600,000	補委 日本学術振興会
妊娠率向上のための子宮におけるLH/hCG作用の解明	峯岸 敬	産婦人科	900,000	補委 日本学術振興会
全ゲノム・ホモザイゴシティ・ハプロタイプ解析による前立腺癌責任遺伝子の解明	鈴木 和浩	泌尿器科	3,600,000	補委 日本学術振興会
摂食調節ホルモンアピタイトカインによるネスファチン受容体制御機構の解明	森 昌朋	第一内科	14,300,000	補委 日本学術振興会
薬剤抵抗性の発現機構解明と薬動力学解析に基づく対処法の構築	山本 康次郎	薬剤部	1,100,000	補委 日本学術振興会
Pdx1転写因子複合体によるエピジェネティックな膵β細胞機能調節機構の解明	荒木 修	検査部	1,230,000	補委 日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における小胞体ストレスの役割	佐藤 賢	光学医療診療部	600,000	補委 日本学術振興会
敗血症性中枢神経障害での脳内転写因子活性と治療法の確立	門井 雄司	手術部	1,000,000	補委 日本学術振興会
PPARガンマKOマウスを用いた敗血症モデル毛細血管内皮細胞の果たす役割の検討	國元 文生	集中治療部	1,100,000	補委 日本学術振興会
敗血症におけるバソプレッシン投与に対する心筋の反応性の検討	日野原 宏	集中治療部	1,000,000	補委 日本学術振興会
脳幹部ニューロンに発現するシネミンの機能解明	水野 裕司	神経内科	800,000	補委 日本学術振興会
糸球体バリア機能における新規細胞間情報伝達系SHPS-1-CD47の解析	野島 美久	第三内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
高次脳機能障害患者の呈する社会不適応要因の抽出についての研究	米村 公江	精神科神経科	500,000	補委 日本学術振興会
統合失調症と気分障害の社会認知障害評価における光トポグラフィの実用化	成田 秀幸	精神科神経科	1,100,000	補委 日本学術振興会
気分障害・適応障害の反復経頭蓋磁気刺激法に際する脳機能反応性の検討	青山 義之	精神科神経科	1,300,000	補委 日本学術振興会
膵臓がんの発生・進展とDNA修復機構異常との関与	鈴木 秀樹	第一外科	1,000,000	補委 日本学術振興会
分子シャペロンHSPの発現増強による食道癌手術成績向上への取り組み	高橋 篤	第一外科	1,100,000	補委 日本学術振興会

シスプラチンによる消化管異常収縮に対する漢方の抑制効果—六君子湯とグレリン—	持木 彰人	第一外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
微小転移モデル確立による食道癌の転移メカニズムと各転移過程における細胞動態の解明	宮崎 達也	第一外科	1,900,000	補委	日本学術振興会
摂食抑制ホルモンNesfatin1の脂肪分化抑制機構の解明と肥満治療への応用	岡田 秀一	第一内科	600,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝炎の病態における核内レセプターPXRとCARのクロストーク	柿崎 暁	第一内科	800,000	補委	日本学術振興会
内分泌腫瘍発生機構の解明:MLL/menin核内複合体—細胞周期経路からの戦略	山田 正信	第一内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
骨髄腫の多段階発癌と予後におけるmicroRNAとメチル化遺伝子の役割	半田 寛	第三内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
腎幹細胞システムを利用した腎再生医学の確立	前嶋 明人	第三内科	700,000	補委	日本学術振興会
PPARの転写共役因子PDIP1KOマウスにおける脂質代謝異常の分子病態解析	佐藤 哲郎	第一内科	700,000	補委	日本学術振興会
数学モデルを用いた頸動脈狭窄症の治療適応に関する検討	好本 裕平	脳神経外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病と筋萎縮性側索硬化症の病態解明に関する研究	岡本 幸市	神経内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
口腔ケラチノサイトのエネルギー代謝と分化再生能を指標とした創傷治癒マーカーの開発	横尾 聡	歯科口腔外科	1,000,000	補委	日本学術振興会
栄養因子の双方向性制御による神経再生促進法の開発:新規DDSとsiRNA	齋藤 繁	麻酔科蘇生科	900,000	補委	日本学術振興会
蛍光蛋白導入マウスを用いた麻酔薬による抑制シナプス伝達分子調節機構の統合解析	西川 光一	麻酔科蘇生科	1,400,000	補委	日本学術振興会
先祖帰り制御因子Notch ligand操作による脳虚血後神経再生促進法の開発	齋藤 繁	麻酔科蘇生科	500,000	補委	日本学術振興会
組織内エストロゲン定量による前立腺疾患リスクおよび伸展予測	柴田 康博	泌尿器科	2,000,000	補委	日本学術振興会
ホルモン抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル感受性増強効果に関する研究	森川 泰如	泌尿器科	890,000	補委	日本学術振興会
筋線維芽細胞の特性に着目した皮膚創傷治療法の開発に関する基礎的研究	安部 正敏	皮膚科	500,000	補委	日本学術振興会
405nm半導体レーザーを用いた低侵襲的診断・治療法の口腔外科領域への導入	宮崎 英隆	歯科口腔外科	700,000	補委	日本学術振興会
がんに対する重粒子線治療の治療方法確立のためのトランスレーショナル研究	中野 隆史	放射線科	2,300,000	補委	日本学術振興会
慢性腎疾患に合併する血管石灰化の分子機構の解明	倉林 正彦	第二内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
INI1蛋白不活性化の有無からみた中枢神経系ラブドイド腫瘍の臨床病理学的研究	平戸 純子	病理部	1,000,000	補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛時の鎮痛薬の薬理学的可塑性—脊髄モノアミンの変動を指標にして—	小幡 英章	麻酔科蘇生科	1,100,000	補委	日本学術振興会
GABA作動性ニューロンの可視化による成長期の脳神経回路構築への麻酔薬の影響	久保 和宏	麻酔科蘇生科	700,000	補委	日本学術振興会
肺癌におけるアミノ酸輸体発現阻害による抗腫瘍効果	解良 恭一	第一内科	1,500,000	補委	文部科学省
神経変性疾患に対するリハビリテーション効果と高次脳機能障害との関連に関する研究	宗宮 真	リハビリテーション部	300,000	補委	文部科学省
悪性脳腫瘍細胞の高浸潤・増殖能に対するX線と粒子線の影響とその分子機構の解明	吉田 由香里	重粒子線医学センター	1,600,000	補委	文部科学省
低酸素腫瘍に対するX線と炭素イオン線の感受性と分子生物学的機構に関する基礎的研究	齋藤 淳一	重粒子線医学センター	1,400,000	補委	文部科学省

眼障害の分子生物学的検索	秋山 英雄	眼科	1,900,000	補委	文部科学省
一過性脳虚血に対する前庭神経細胞の脆弱性の解明	高安 幸弘	耳鼻咽喉科	600,000	補委	文部科学省
一過性脳虚血に対する舌下神経前位核ニューロンの脆弱性	紫野 正人	耳鼻咽喉科	2,800,000	補委	文部科学省
小胞輸送関連分子欠損マウスを用いたマクロファージによる異物貪食機構の検討	佐藤 真人	患者支援センター	600,000	補委	文部科学省
神経再生と神経分化制御因子を用いた神経障害性疼痛治療法の開発	関本 研一	腫瘍センター	900,000	補委	文部科学省
排卵期ヒト卵巣顆粒膜細胞の変化とその機能	岸 裕司	周産母子センター	800,000	補委	文部科学省
複合的非侵襲的指標で算出する新規の集中治療予後予測スコア作成	大川 牧生	集中治療部	1,600,000	補委	文部科学省
TGF- β による血管新生促進システムPDGF-A/A/p70SK6抑制機構の意義	藤井 孝明	第一外科	1,200,000	補委	文部科学省
p116Rip proteinの気道ムチン分泌に及ぼす影響について	古賀 康彦	第一内科	1,600,000	補委	文部科学省
非アルコール性脂肪性肝炎における細胞特異的なSTAT3の役割	堀口 昇男	第一内科	1,300,000	補委	文部科学省
膵 β 細胞におけるTRHの作用解析	渋谷 信行	内分泌内科	1,300,000	補委	文部科学省
新規光感受性物質を用いた悪性神経腫瘍に対する光線力学療法の実験	菅原 健一	脳神経外科	1,300,000	補委	文部科学省
アポトーシス抑制因子サバイビンをターゲットとした新規分子標的癌治療の研究	小池 秀和	泌尿器科	1,100,000	補委	文部科学省
血中インフラボン濃度の前立腺癌発症・増殖に与える影響に関する予防疫学的研究	宮久保 真意	泌尿器科	1,100,000	補委	文部科学省
ガドリニウムによる線維化・石灰化機序の解明	岡田 悦子	皮膚科	500,000	補委	文部科学省
正常脳神経細胞における、重粒子線の影響に関する分子生物学的解析	鈴木 義行	放射線科	1,600,000	補委	文部科学省
EGFR遺伝子増幅を指標とした膠芽腫浸潤範囲の描出と周囲の組織反応の検討	宮永 朋実	病理部	800,000	補委	文部科学省
粒子線増感法による新規低侵襲型粒子線がん治療法の基礎的検討	島田 博文	重粒子線医学センター	1,100,000	補委	文部科学省
神経膠芽腫に対する新規GRP78阻害薬併用放射線療法の実験	野田 真永	放射線科	1,500,000	補委	文部科学省
麻酔薬によるシナプス可塑性抑制作用の分子機構: GABA合成酵素変異動物での解析	石関 淳子	麻酔科蘇生科	900,000	補委	文部科学省
ドラッグデリバリーシステムを応用した徐放化局所麻酔薬の作成と慢性疼痛治療への応用	戸部 賢	麻酔科蘇生科	700,000	補委	文部科学省
神経障害性疼痛に対する抗うつ薬の鎮痛機序の解明	中島 邦枝	麻酔科蘇生科	1,000,000	補委	文部科学省
CTガイド分子標的疼痛治療の開発: 高周波熱凝固と栄養因子修飾による可塑性制御	肥塚 史郎	麻酔科蘇生科	1,100,000	補委	文部科学省
痛みの性差と鎮痛機序-fMRI研究	荻野 祐一	麻酔科蘇生科	1,400,000	補委	文部科学省
難聴児の社会適応性に関する研究	古屋 信彦	耳鼻咽喉科	1,440,000	補委	群馬県
初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法-CPT-11単独療法vsTS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較	桑野博行	第一外科	2,142,000	補委	特定非営利活動法人日本がん臨床試験推進機構
筋萎縮性索硬化症等神経難病患者及び家族に対する療養支援体制の整備と、医療ネットワーク及び地域支援ネットワーク構築に関する研究	岡本幸市	神経内科	2,179,000	補委	群馬県

難病患者及び家族に対する相談体制の整備と支援体制に関する研究	岡本幸市	神経内科	3,313,000	補 委	群馬県
177Lu標識抗体の合成及び特性評価研究	遠藤啓吾	核医学科	2,358,327	補 委	独立行政法人日本 原子力研究開発機 構
気分障害の治療システムの開発と検証に関する研究	成田耕介	精神科神経科	850,000	補 委	国立精神・神経セ ンター
精神疾患の客観的補助診断法の標準化と科学的根拠に基づく治療反応性の判定法の確立	三國雅彦	精神科神経科	2,700,000	補 委	国立精神・神経セ ンター
統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究	福田正人	精神科神経科	2,300,000	補 委	国立精神・神経セ ンター
がん放射線診断における患者被ばくの実態調査と放射線誘発がんのリスク推定に関する研究	遠藤啓吾	核医学科	11,660,000	補 委	国立がん研究セン ター
心疾患に関するエンドポイント評価	倉林正彦	第二内科	800,000	補 委	国立国際医療研究 センター
がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究/局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法併用の意義	伊藤一人	泌尿器科	1,700,000	補 委	独立行政法人国立 がん研究センター
がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究/局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法併用の意義	中野 隆史	放射線科	500,000	補 委	独立行政法人がん 研究センター
次世代医療機器評価指標作成事業 コンピュータ診断支援装置	遠藤啓吾	核医学科	3,615,385	補 委	国立医薬品食品衛 生研究所
橋渡し促進技術開発がん細胞に発現する必須アミノ酸トランスポーター(LAT1)を分子標的とする新規抗がん療法の研究開発	織内 昇	核医学科	9,400,000	補 委	独立行政法人新エ ネルギー・産業技 術総合開発機構
難治性がん治療に向けた機能画像法の開発	織内 昇	核医学科	2,991,120	補 委	文部科学省
細胞機能制御に基づく循環器疾患の創薬基盤研究,血管平滑筋細胞の形質変換の制御機構の解析	倉林正彦	第二内科	1,500,000	補 委	独立行政法人国立 循環器病研究セン ター
				補 委	

小計 13

合計 91

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pacing Clin Electrophysiol. 2011	Inappropriate Therapy Delivered by a CRT-D for Tachycardia with Simultaneous Atrial and Ventricular Activation: What Is the Tachycardia?	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Ota M, Kato T, Iijima T, Iizuka T,	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 Aug 4.	Putative Mechanism of a Postpacing Interval Paradoxically Shorter Than the Tachycardia Cycle Length.	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Kato T, Iijima T, Kurabayashi M.	第二内科
Cardiol J. 2011;18(4):450-3.	Typical atrial flutter with atypical flutter wave morphology due to abnormal interatrial conduction.	Irie T, Kaneko Y, Nakajima T, Saito A, Ota M, Kato T, Iijima T, Tamura	第二内科
Pacing Clin Electrophysiol. 2011	Reciprocal Induction of Long RP and Wide QRS Tachycardias.	Irie T, Kaneko Y, Nakajima T, Kato T, Iijima T, Kurabayashi M.	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 Jul 7.	Nocturnal and Pause-Dependent Amplification of J Wave in Brugada Syndrome.	Kaneko Y, Aizawa Y, Kurabayashi M, Brugada P.	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 May;22(5):598-9.	Epimyocardium-dominant electrical impairment in a patient with cardiomyopathy.	Nakajima T, Kaneko Y, Irie T, Kurabayashi M.	第二内科
J Atheroscler Thromb. 2011 Aug 24;18(8):670-83.	Activation of receptor for advanced glycation end products induces osteogenic differentiation of vascular smooth muscle cells.	Suga T, Iso T, Shimizu T, Tanaka T, Yamagishi S, Takeuchi M,	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 Apr 13.	Atrial Flutter After Cavotricuspid Isthmus Ablation: What is the Mechanism?	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Kato T, Iijima T, Kurabayashi M.	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 Apr;22(4):478-80.	Is the targeted accessory pathway alive or dead?	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Iijima T, Kato T, Kurabayashi M.	第二内科
J Biol Chem. 2011 May 27;286(21):19138-48.	Notch signaling pathway enhances bone morphogenetic protein 2 (BMP2) responsiveness of Msx2 gene to induce osteogenic differentiation and mineralization of vascular smooth muscle cells.	Shimizu T, Tanaka T, Iso T, Matsui H, Ooyama Y, Kawai-Kowase K,	第二内科
J Cardiol. 2011 May;57(3):325-32.	Serum syndecan-4 is a novel biomarker for patients with chronic heart failure.	Takahashi R, Negishi K, Watanabe A, Arai M, Naganuma F,	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 Mar;22(3):351.	Unintentional protrusion and trapping of the screw-in helix of an implantable cardioverter defibrillator lead.	Irie T, Kaneko Y, Nakajima T, Kurabayashi M.	第二内科
nt Heart J. 2011;52(1):27-31.	Identification of six novel SCN5A mutations in Japanese patients with Brugada syndrome.	Nakajima T, Kaneko Y, Saito A, Irie T, Tange S, Iso T, Kurabayashi	第二内科
Pacing Clin Electrophysiol. 2011 Aug;34(8):1028-30.	Differential Diagnosis of Supraventricular Tachycardia with Ventriculoatrial Dissociation during Ventricular Overdrive Pacing.	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Ota M, Kato T, Iijima T, Tamura	第二内科
Intern Med. 2011;50(2):113-7.	Onset of reentrant ventricular tachycardia modulated by variable impulse propagation through the zone of slow conduction.	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Saito A, Ota M, Kato T, Iijima T,	第二内科
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2011 May;300(5):L740-52.	Hypoxia-inducible factor-1 α mediates TGF- β -induced PAI-1 production in alveolar macrophages in pulmonary fibrosis.	Ueno M, Maeno T, Nomura M, Aoyagi-Ikeda K, Matsui H, Hara K,	第二内科

小計16

Eur J Radiol. 2011 Jan 14.	Estimation of the left ventricular diastolic function with cardiac MDCT: Correlation of the slope of the time-enhancement-curve with the mitral annulus diastolic velocity.	Nakahara T, Jinzaki M, Fukuda N, Takahashi Y, Ishihara T, Takada	第二内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2011 Aug;22(8):945-7.	Long RP' Tachycardia with an Initial A-A-V Activation Sequence: What Is the Mechanism?	Kaneko Y, Nakajima T, Irie T, Kato T, Iijima T, Kurabayashi M.	第二内科
Circ J. 2010 Nov 25;74(12):2734-40.	Association between fibroblast growth factor 23 and left ventricular hypertrophy in maintenance hemodialysis patients. Comparison with B-type natriuretic peptide and cardiac troponin T.	Negishi K, Kobayashi M, Ochiai I, Yamazaki Y, Hasegawa H,	第二内科
Seishin Shinkeigaku	Diagonostic procedures such as those using DSM-IV that are available even to judges	Mikuni M.	精神科神経科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	Volume reduction of ventromedial prefrontal cortex in bipolar II patients with rapid cycling: a voxel-based morphometric study.	Narita K.	精神科神経科
Seishin Shinkeigaku	Study on cerebral physopathology in eating disorders by employing multi-channel near infrared spectroscopy(photic topography).	Uehara T. .	精神科神経科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	Preattentive dysfunction in bipolar disorder: a MEG study using auditory mismatch negativity.	Takei Y.	精神科神経科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	Relationship of parental bonding styles with gray matter volume of dorsolateral prefrontal cortex in young adults.	Narita K.	精神科神経科
J Psychiatr Res.	Dieting tendency and eating behavior problems in eating disorder correlate with right frontotemporal and left orbitofrontal cortex: a near-infrared spectroscopy study.	Suda M.	精神科神経科
こころの臨床	統合失調症の病態ステージと機能障害の改善をつうじた回復	福田正人	精神科神経科
体育の科学	心理現象・精神症状とNIRS	福田正人	精神科神経科
臨床精神医学	こころの健康推進を日本の基本政策に	福田正人	精神科神経科
精神科	NIRSの気分障害への臨床応用の新しい試み	武井雄一	精神科神経科
精神科臨床サービス	こころの健康を守る政策として求められるアウトリーチ	福田正人	精神科神経科
精神医学	「第106回日本精神神経学会」印象記	福田正人	精神科神経科
精神神経学雑誌	多チャンネル近赤外線分光法(光トポグラフィ)による摂食障害の脳病態研究	上原 徹	精神科神経科
精神医学	「第50回日本児童青年精神医学会」印象記	亀山正樹	精神科神経科
こころの臨床	統合失調症の病態ステージと機能障害の改善をつうじた回復	福田正人	精神科神経科

臨床精神薬理	脳画像からみた双極性障害の特徴	亀山正樹	精神科神経科
日本医事新報	先進医療 うつ症状の光トポグラフィー検査	福田正人	精神科神経科
日本小児科学会雑誌 114(4):646-656. 2010	新生児の中心静脈ライン管理についての文献的検討(総説).	大木康史、塩谷亜矢、中島一恵、鳴海僚彦、井上貴博、関矢亜矢子、	小児科
日本小児呼吸器疾患学会雑誌 21(1):28-32. 2010	アストグラフ法による気道過敏性の測定	村松礼子	小児科
Congenit Heart Dis. 5;56-59. 2010	Single coronary artery with right ventricular fistula: Case report and literature review.	Ishii Y, Suzuki T, Kobayashi T, Arakawa H.	小児科
Ann Thorac Surg. 89;973-975. 2010	Staged repair of truncus arteriosus with interrupted aortic arch: adjustable pulmonary artery banding.	Kobayashi T, Miyamoto T, Kobayashi T, Ikeda K, Koizuka K,	小児科
J Gastroenterol. 45:911-917. 2010	Inflammatory Bowel Disease in Children: Epidemiological Analysis of the Nationwide IBD Registry in Japan.	Ishige T, Tomomasa T, Takebayashi T, Asakura K,	小児科
Pediatr Int. 52(2):319-26. 2010	Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology. Japanese pediatric guidelines for the treatment and management of bronchial asthma 2008.	Kondo N, Nishimuta T, Nishima S, Morikawa A,	小児科
Pediatr Blood Cancer. 15;55(7):1406-9. 2010	NOTCH1 mutation in a female with myeloid/NK cell precursor acute leukemia.	Shiba N, Kanazawa T, Park MJ, Okuno H, Tamura K, Tsukada S,	小児科
Pediatr Int. 52(6):876-82.2010	Standard method for ultrasound imaging of coronary artery in children.	Fuse S, Kobayashi T, Arakaki Y, Ogawa S, Katoh H, Sakamoto N,	小児科
Cardiovasc Res. 85(3):434-43, 2010 (IF: 5.801)	Protein kinase C delta mediates arterial injury responses through regulation of vascular smooth muscle cell apoptosis.	Yamanouchi D, Kato K, Ryer EJ, Zhang F, Liu B	第一外科 (海外留学中)
Anticancer Res. 30(3):851-6, 2010 (IF: 1.428)	Significance of Karyopherin-alpha 2 (KPNA2) Expression in Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Sakai M, Sohda M, Miyazaki T, Suzuki S, Sano A, Tanaka N, Inose T,	第一外科
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 30(4):702-7, 2010 (IF: 7.235)	Effects of caspase inhibitor on angiotensin II-induced abdominal aortic aneurysm in apolipoprotein E-deficient mice.	Yamanouchi D, Morgan S, Kato K, Lengfeld J, Zhang F, Liu B	第一外科 (海外留学中)
Cancer Sci. 101(6):1487-92, 2010 (IF: 3.771)	Quantitative analysis of cisplatin sensitivity of human esophageal squamous cancer cell lines using in-air micro-PIXE.	Tanaka N, Kimura H, Faried A, Sakai M, Sano A, Inose T, Sohda M, Okada K,	第一外科
In Vitro Cell Dev Biol Anim. 46(6):487-91, 2010 (IF: 0.791)	Regulation of the expression balance of angiopoietin-1 and angiopoietin-2 by Shh and FGF-2.	Fujii T, Kuwano H	第一外科
Anticancer Res. 30(10): 4223-4227, 2010 (IF: 1.428)	L-type Amino-Acid Transporter 1 Expression Predicts the Response to Preoperative Hyperthermo-Chemoradiotherapy for Advanced Rectal Cancer	Ebara T, Kaira K, Saito JI, Shioya M, Asao T, Takahashi T, Sakurai H,	放射線科、第一外科
Ann Surg Oncol. 17(12):3181-6, 2010 (IF: 4.13)	18F-FAMT PET is useful for the diagnosis of lymph node metastasis in operable esophageal squamous cell carcinoma.	Sohda M, Kato H, Suzuki S, Tanaka N, Sano A, Sakai M, Inose T, Nakajima	第一外科
Int J Colorectal Dis. 25(1):53-61, 2010 (IF: 2.102)	Characterization of special propulsive contractions during rectal evacuation in a canine model of intestinal extrinsic denervation and rectal transection	Tabé Y, Mochiki E, Yanai M, Toyomasu Y, Ando H, Ohno T, Yamauchi H,	第一外科

Int J Pept. pii: 820794. Epub 2010 Feb 3. (IF: 0.869)	The Roles of Motilin and Ghrelin in Gastrointestinal Motility.	Ohno T, Mochiki E, Kuwano H	第一外科
World J Surg. 34(3):544-8, 2010 (IF: 2.696)	Implication of Extracapsular Invasion of Sentinel Lymph Nodes in Breast Cancer: Prediction of Nonsentinel Lymph Node Metastasis	Fujii T, Yanagita Y, Fujisawa T, Hirakata T, Iijima M, Kuwano H	第一外科
Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 298(4):R1125-35, 2010 (IF: 3.058)	Intragastric monosodium L-glutamate stimulates motility of the upper gut via the vagus nerve in conscious dogs.	Toyomasu Y, Mochiki E, Yanai M, Ogata K, Tabe Y, Ando H, Ohno T,	第一外科
Esophagus 7(4): 200-201, 2010 (IF: 0)	Video workshop 2:Techniques in esophageal reconstruction and anastomosis.	Kato H, Kuwano H	第一外科
Surg Endosc. 2010 May 22. [Epub ahead of print] (IF: 3.307)	The benefits of laparoscopically assisted distal gastrectomy for obese patients.	Ohno T, Mochiki E, Ando H, Ogawa A, Yanai M, Toyomasu Y, Ogata K, Aihara	第一外科
Surg Endosc. 24(3):631-6, 2010 (IF: 3.307)	Clinical outcomes of double endoscopic intraluminal surgery for early gastric cancer.	Mochiki E, Yanai M, Toyomasu Y, Ogata K, Andoh H, Ohno T, Aihara R, Asao T,	第一外科
Eur J Cardiothorac Surg. 37(5):1209-14, 2010 (IF: 2.397)	Pulmonary function after pulmonary resection by posterior thoracotomy, anterior thoracotomy or video-assisted surgery.	Endoh H, Tanaka S, Yajima T, Ito T, Tajima K, Mogi A, Shitara Y, Kuwano	第一外科
Breast Care (Basel). 5(2):102-104, 2010 (IF: 0.5)	Implication of an Intramammary Sentinel Lymph Node in Breast Cancer: Is This a True Sentinel Node? A Case Report.	Fujii T, Yajima R, Matsumoto A, Yamaki S, Uchida N, Tsutsumi S,	第一外科
Int Surg. 95(1):60-2, 2010 (IF: 0.297)	Primary mucinous adenocarcinoma of the ileum: Case report.	Toyomasu Y, Tsutsumi S, Yamaguchi S, Mochiki E, Asao T,	第一外科
Case Rep Gastroenterol. 20;4(1):118-123, 2010 (IF: 0)	Adenocarcinoma of Ascending Colon Associated with Sarcoid Reaction in Reaction in Regional Lymph Nodes.	Fujii T, Tabe Y, Yajima R, Tsutsumi S, Asao T, Kuwano H	第一外科
Rare Tumors. 31;2(1):e2, 2010 (IF: 0)	Rosai-Dorfman disease of the colon presented as small solitary polypoid lesion.	Ide M, Asao T, Yoshida T, Hirato J, Shimura T, Morinaga N, Shitara	第一外科
World J Gastroenterol. 16(22):2764-70, 2010 (IF: 2.092)	Relationship between clinicopathological features and mucin phenotypes of advanced gastric adenocarcinoma.	Toki F, Takahashi A, Aihara R, Ogata K, Ando H, Ohno T, Mochiki E, Kuwano	第一外科
Surg Today. 40(6):561-5, 2010 (IF: 1.05)	Sudden bilateral sensorineural hearing loss as the presenting symptom of meningeal carcinomatosis of gastric cancer: report of a case	Ohno T, Yokoyama Y, Aihara R, Mochiki E, Asao T, Kuwano H	第一外科
Eur J Cancer. 46(10):1900-9, 2010 (IF: 4.388)	Inhibition of autophagy augments 5-fluorouracil chemotherapy in human colon cancer in vitro and in vivo model.	Li J, Hou N, Faried A, Tsutsumi S, Kuwano H	第一外科
J Gastroenterol. 45(8):831-7, 2010 (IF: 2.909)	Safe and effective sedation in endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer: a randomized comparison between propofol continuous infusion and intermittent	Kiriyama S, Gotoda T, Sano H, Oda I, Nishimoto F, Hirashima T,	第一外科
Dig Surg. 27(4):331-335, 2010 (IF: 1.372)	Thickness of Subcutaneous Fat as a Strong Risk Factor for Wound Infections in Elective Colorectal Surgery: Impact of Prediction Using Preoperative CT	Fujii T, Tsutsumi S, Matsumoto A, Fukasawa T, Tabe Y, Yajima R, Asao	第一外科
Surg Endosc. 24(9):2343-8, 2010 (IF: 3.307)	Laparoscopy-assisted proximal gastrectomy with gastric tube reconstruction for early gastric cancer.	Aihara R, Mochiki E, Ohno T, Yanai M, Toyomasu Y, Ogata K, Ando H, Asao T,	第一外科
Dig Dis Sci. 55(9):2489-97, 2010 (IF: 1.838)	Comparison of postoperative motility in hand-sewn end-to-end anastomosis and functional end-to-end anastomosis: An experimental study in conscious dogs	Toyomasu Y, Mochiki E, Ando H, Yanai M, Ogata K, Tabe Y, Ohno T,	第一外科

Ann Surg Oncol. 17(10):2601-7, 2010 (IF: 4.13)	Clinical Significance of Stanniocalcin 2 as a Prognostic Marker in Gastric Cancer.	Yokobori T, Mimori K, Ishii H, Iwatsuki M, Tanaka F, Kamohara Y, Ieta K,	第一外科
J Thorac Oncol. 5(11):1859-61, 2010 (IF: 4.547)	Analysis of ERBB4 Mutations and Expression in Japanese Patients with Lung Cancer.	Tomizawa K, Suda K, Onozato R, Kuwano H, Yatabe Y, Mitsudomi T	第一外科
Ann Surg Oncol. 2010 Nov 2. [Epub ahead of print] (IF: 4.13)	Clinical Significance of Melanoma Antigen- Encoding Gene-1 (MAGE-1) Expression and Its Correlation with Poor Prognosis in Differentiated Advanced Gastric Cancer	Ogata K, Aihara R, Mochiki E, Ogawa A, Yanai M, Toyomasu Y, Ando	第一外科
Surg Today. 2010 Dec;40(12):1144-7, 2010 (IF: 1.05)	Clinical study of inguinal and femoral incarcerated hernias.	Tanaka N, Uchida N, Ogihara H, Sasamoto H, Kato H, Kuwano H	第一外科
Surg Today. 40(12):1105-11, 2010 (IF: 1.05)	The effect of traditional Japanese medicine (Kampo) on gastrointestinal function.	Mochiki E, Yanai M, Ohno T, Kuwano H	第一外科
Int Surg. 95(1):27-32, 2010 (IF: 0.297)	Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma of the Appendix Vermiformis.	Miyazaki T, Ishiguro T, Ishibashi K, Itoyama S, Ishida H	第一外科
J Surg Res 167(1):49-55, 2011	The effect of nicorandil on ischemia-reperfusion injury in a porcine total hepatic vascular exclusion model.	Yamazaki H, Oshima K, Sato H, Kobayashi K, Suto Y, Hirai K,	第二外科
Breast Cancer 2011	Topoisomerase II alpha expression and the Ki-67 labeling index correlate with prognostic factors in estrogen receptor-positive and human epidermal growth factor type-2-negative breast cancer.	Tokiniwa H, Horiguchi J, Takata D, Kikuchi M, Rokutanda N,	第二外科
Ann Thorac Surg 91(1): 317-319, 2011	Cystoperitoneal shunt for a giant intrathoracic meningocele under local anesthesia.	Tanaka K, Shimizu K, Kakegawa S, Oshima K, Takeyoshi I	第二外科
Anticancer Res 31(1): 287-291, 2011	A phase II study of weekly paclitaxel and doxifluridine combination chemotherapy for advanced/recurrent gastric cancer.	Takeyoshi I, Makita F, Tanahashi Y, Iwazaki S, Ogawa	第二外科
Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi 108(8): 1413-1419, 2011	A case of amoebic liver abscess complicated by a gastric fistula cured with oral medication only.	Takahashi N, Arakawa K, Sunose Y, Totsuka O, Toya H, Takeyoshi	第二外科
Dig Dis Sci 56(8):2276-2282, 2011	The effect of nicorandil on small intestinal ischemia-reperfusion injury in a canine model.	Suto Y, Oshima K, Arakawa K, Sato H, Yamazaki H, Matsumoto K,	第二外科
Jpn J Clin Oncol 41(3): 434-439, 2011	Large cell neuroendocrine carcinoma of the ampulla of Vater with adenocarcinoma and squamous cell carcinoma components.	Sunose Y, Ogawa T, Itoh H, Andoh T, Tomizawa N, Tanaka T,	第二外科
Oncol Rep 26(5):1205-1211, 2011	Correlation between computed tomography findings and epidermal growth factor receptor and Kras gene mutations in patients with pulmonary adenocarcinoma.	Sugano M, Shimizu K, Nakano T, Kakegawa S, Miyamae Y, Kaira	第二外科
Surg Today 41(8): 1166-1168, 2011	A novel technique for closing a tracheocutaneous fistula using a hinged skin flap.	Kamiyoshihara M, Nagashima T, Takeyoshi I	第二外科
Cancer Sci 102(3):656-662, 2011	Triple-negative breast cancer: histological subtypes and immunohistochemical and clinicopathological features.	Ishikawa Y, Horiguchi J, Toya H, Nakajima H, Hayashi M, Tagaya	第二外科
Jpn J Clin Oncol 2010	Large Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Ampulla of Vater with Adenocarcinoma and Squamous Cell Carcinoma Components.	Sunose Y, Ogawa T, Itoh H, Andoh T, Tomizawa N, Tanaka T,	第二外科
J Thorac Oncol 5(10): 1507-1515, 2010	Stromal macrophage expressing CD204 is associated with tumor aggressiveness in lung adenocarcinoma.	Ohtaki Y, Ishii G, Nagai K, Ashimine S, Kuwata T, Hishida T,	第二外科

J Thorac Oncol 2010	Stromal Macrophage Expressing CD204 is Associated with Tumor Aggressiveness in Lung Adenocarcinoma.	Ohtaki Y, Ishii G, Nagai K, Ashimine S, Kuwata T, Hishida T,	第二外科
Ann Thorac Surg 90(6): 2060, 2010	Three-dimensional imaging of an anomalous systemic artery supplying normal lung.	Kamiyoshihara M, Nagashima T, Ichimonji I, Takeyoshi I	第二外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg 11(5):693-695, 2010	A tip for controlling the main pulmonary artery during video-assisted thoracic major pulmonary resection: the outside-field vascular clamping technique.	Kamiyoshihara M, Nagashima T, Ibe T, Takeyoshi I	第二外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 58(6):291-294, 2010	Rupture of the diaphragm and pericardium with cardiac herniation after blunt chest trauma.	Kamiyoshihara M, Nagashima T, Ibe T, Takeyoshi I	第二外科
Asian Cardiovasc Thorac Ann 18(5):464-468, 2010	Is epidural analgesia necessary after video-assisted thoracoscopic lobectomy?.	Kamiyoshihara M, Nagashima T, Ibe T, Atsumi J, Shimizu K,	第二外科
Ann Thorac Surg 90(5): 1705-1707, 2010	Serial chest films are needed after a diagnosis of pneumopericardium because of risk of cardiac herniation.	Kamiyoshihara M, Nagashima T, Baba S, Shimizu K, Takeyoshi I	第二外科
Surg Today 40(7):688-690, 2010	Digit-assisted thoracoscopic surgery for mediastinal tumors: a novel technique.	Kamiyoshihara M, Ibe T, Takeyoshi I	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 60(3):265-270, 2010	Successful Treatment of Recurrent Gastric Cancer with Chemotherapy for More than 6 Years: A Case Report.	Hirai K, Takeyoshi I, Sunose Y, Yoshinari D, Arakawa K,	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(2):193-197, 2011	高齢者で誤嚥性肺炎を繰り返す食道裂孔ヘルニアに対し腹腔鏡下噴門形成術が有用であった1例.	平井圭太郎, 吉成大介, 小松恵, 佐藤泰輔, 田中和美, 高橋憲史, 小川博	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(1):9-13, 2011	胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の検討.	竹吉泉, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之, 小川博臣, 平井圭太郎, 高橋憲史,	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(1):31-35, 2011	腹腔鏡補助下胃切除術における3D-CTによる術前評価の有用性.	竹吉泉, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之, 小川博臣, 平井圭太郎, 高橋憲史,	第二外科
手術 65(3):381-384, 2011	急性の肝破裂に対して緊急肝切除により救命しえた肝未分化肉腫の1例.	須納瀬豊, 平井圭太郎, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之, 竹吉泉	第二外科
日本腹部救急医学会雑誌 31(1):119-122, 2011	出血性ショックを初発症状とした膵頭部癌十二指腸浸潤の1切除例.	須納瀬豊, 平井圭太郎, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之, 小川博臣, 高橋憲	第二外科
日本腹部救急医学会雑誌 31(3):541-545, 2011	外傷性血気胸として発症した横隔膜ヘルニアを伴う脾損傷の1手術例.	須納瀬豊, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之, 小川博臣, 平井圭太郎, 高橋	第二外科
日本臨床外科学会雑誌 72(3):663-669, 2011	集学的治療で長期間無再発生存中の胃GIST術後多発性肝転移の1例.	小川博臣, 竹吉泉, 須納瀬豊, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之	第二外科
癌と化学療法 38(1): 93-96, 2011	高用量Toremifene投与が著効したAromatase阻害剤耐性再発乳癌の1例.	黒住献, 竹尾健, 池田文広, 堀口淳, 竹吉泉, 伊藤秀明	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(1):63-68, 2011	胆石症の手術入院を契機として診断されたインスリンノーマの1例.	高橋憲史, 大矢敏裕, 松本広志, 多胡賢一, 清水尚, 沼賀有紀, 家里裕,	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(2):199-206, 2011	腹腔鏡補助下幽門側胃切除後、比較的早期に局所再発をきたしたAFP産生早期胃癌の1例.	高橋憲史, 大矢敏裕, 松本広志, 多胡賢一, 室谷研, 佐藤泰輔, 家里裕,	第二外科

The Kitakanto Medical Journal 61(2):207-214, 2011	Epstein-Barr Virus(EBV)感染が認められなかった脾臓原発の炎症性偽腫瘍様濾胞樹状細胞性腫瘍の1例.	高橋憲史, 大矢敏裕, 松本広志, 多胡賢一, 室谷研, 佐藤泰輔, 家里裕,	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(2):187-191, 2011	Weekly Paclitaxel(PTX)+Doxifluridine(5'-DFUR)併用療法で腹膜播種が消失し根治手術を施行しえた胃癌の1例.	戸谷裕之, 竹吉泉, 須納瀬豊, 吉成大介, 戸塚統, 小川博臣, 平井圭太郎,	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 61(1):59-62, 2011	翻転した盲腸壁が先進部となり発症した盲腸癌腸重積症の1例.	橋本直樹, 小林純哉, 石川仁, 竹吉泉	第二外科
日本臨床外科学会雑誌 71(5):1149-1153, 2010	先天性第X因子欠乏症を伴った腹部大動脈瘤の1手術例.	内田紗弥香, 茂原淳, 高橋徹, 内海英貴, 野島美久, 竹吉泉	第二外科
群馬県救急医療懇談会誌 622-24, 2010	当院におけるPCPS現状とコ・メディカルの役割.	田島行雄, 金田智子, 花淵喜久夫, 相田武則, 戸塚統, 竹吉泉, 国元文生,	第二外科
胆と膵 31(8):799-802, 2010	肝内胆管癌術後再発に対しS-1/Gemcitabine併用療法が奏効した1例.	清水尚, 大矢敏裕, 松本広志, 多胡賢一, 沼賀有紀, 高橋憲史, 家里裕,	第二外科
肝臓 51(12):751-757, 2010	切除不能と診断後、肝不全に至るまでの自然経過を観察し得た肝原発類上皮血管内皮腫の1例.	須納瀬豊, 平井圭太郎, 吉成大介, 戸塚統, 戸谷裕之, 小川博臣, 高橋憲	第二外科
日本胸部臨床 69(5):453-458, 2010	肺悪性腫瘍術後、急速な発症を来した急性呼吸促進症候群の1例.	上吉原光宏, 伊部崇史, 永島宗晃, 竹吉泉, 滝瀬淳, 堀江健夫, 遠藤克	第二外科
乳癌基礎研究 1919-23, 2010	核内ホルモン受容体ROR α によるアロマトラーゼ遺伝子の新たな活性化機序.	小田原宏樹, 岩崎俊晴, 堀口淳, 鯉淵幸生, 六反田奈和, 時庭英彰, 飯	第二外科
日本臨床外科学会雑誌 71(11):2825-2829, 2010	骨髄異形成症候群を伴った大動脈弁狭窄症の1例.	小此木範之, 茂原淳, 高橋徹, 横濱章彦, 野島美久, 竹吉泉	第二外科
The Kitakanto Medical Journal 60(2):169-174, 2010	再生不良性貧血の治療経過中に発症した胃原発腺扁平上皮癌の1例.	山田達也, 内山俊正, 坂元一郎, 大木孝, 小川晃, 中村正治, 竹吉泉	第二外科
肺癌 50(4):379-380, 2010	肺胞壁に沿って進展する扁平上皮癌の1切除例.	渥實潤, 清水公裕, 懸川誠一, 佐野孝昭, 片野未央, 竹吉泉, 廣島健三	第二外科
Eur Spine J. 2010 Nov 1.	Atlanto-axial joint of atlanto-axial subluxation patients due to rheumatoid arthritis before and after surgery, morphological evaluation using CT reconstruction.	Sorimachi Y., Iizuka H., Ara T., Nishinome M., Iizuka Y., Nakajima	整形外科
J Bone Joint Surg Br. Mar;92(3):419-23,2010	Role of 2-deoxy-2-[F-18] fluoro-D-glucose positron emission tomography in the management of bone and soft-tissue metastases.	Yanagawa T., Shinozaki T., Iizuka Y., Takagishi K.,	整形外科
Skeletal Radiol. Jun;39(6):601-2, 2010	Multiple subcutaneous inflammation, osteolysis, and polyarthritis.	Takechi Y., Shinozaki T., Fukuda T., Asami K., Yanagawa T.,	整形外科
J Arthroplasty. Jul 19,2010	Relationship Between Femoral Component Rotation and Total Knee Flexion Gap Balance on Modified Axial Radiographs.	Hatayama K., Terauchi M., Higuchi H., Yanagisawa S.,	整形外科
Eur Spine J. Jun 13,2010	Non-traumatic posterior atlanto-occipital joint dislocation.	Takechi Y., Iizuka H., Sorimachi Y., Ara T., Nishinome M., Takagishi K.	整形外科
J Neurosurg Spine. Jun;12(6):635-40,2010	Evaluation of neck pain by using a visual analog scale before and after laminoplasty in patients with cervical myelopathy: relationship with clinical results.	Ara T., Iizuka H., Sorimachi Y., Iizuka Y., Nakajima T., Nishinome M.,	整形外科

J Hand Surg Am. 36(3):428-31,2011	Solitary osteochondroma of the trapezium: case report.	Koshi H., Shinozaki T., Hosokawa T., Yanagawa T.,	整形外科
J Orthop Sci. Jan;15(1):51- 6,2010.Epub Feb 12, 2010	Clinical and biochemical characteristics after intra-articular injection for the treatment of osteoarthritis of the knee: prospective randomized study of sodium hyaluronate and corticosteroid.	Shimizu M., Higuchi H., Takagishi K., Shinozaki T.,	整形外科
Journal of Spine Research.2(2):341- 343,2011	Associations between lower back pain and lumbar spinal stenosis and sagittal spinal alignment among elderly populations.	Iizuka Y., Iizuka H., Yamamoto A., Nishinome M., Takagishi K.	整形外科
日本手外科学会雑誌. 26(6):501-505,2010	至適固定肢位を得るための母指CM関節固定術の工夫.	黒沢 一也、星野 貴光、中島 大輔、 佐野 浩志、高岸 憲二	整形外科
Journal of Spine Research.1(9):750- 1754,2010	MED法にて治療したガス含有腰椎椎間板ヘルニアの1例.	近藤 尚行、斯波 俊祐、高岸 憲二	整形外科
臨床整形外科. 45(9):821-825,2010	一般住民における肩こりの疫学.	高澤 英嗣、山本 敦史、大沢 敏久、 小林 勉、飯塚 伯、佐藤 直樹、佐	整形外科
肩関節.34(2)471- 474,2010	姿勢異常が肩関節痛および腱板断裂に及ぼす影響.	山本 敦史、高岸 憲二、岡部 興一、 設楽 仁、山口 蔵 人、一ノ瀬 剛、小	整形外科
JOSKAS.35(3):576- 580,2010	術後屈曲バランスからみた大腿骨コンポーネント回旋設置角度の検討.	畑山 和久、寺内 正紀、斎藤 健一、 柳澤 真也、清水 雅樹、高岸 憲二	整形外科
日本足の外科学会雑誌. 31(2):138-142,2010	前外側進入法に内側進入法を併用した踵骨関節内骨折の整復固定.	日尾 有宏、高岸 憲二、長谷川 惇、 門田 聡、野口 英 雄	整形外科
臨床整形外科.45 (7):597-601,2010	地域住民における運動器不安定性の疫学調査.	細川 高史、山本 敦史、大澤 敏久、 小林 勉、飯塚 伯、佐藤 直樹、佐	整形外科
日本整形外科学会 スポーツ医学会雑誌. 30(1):40-44,2010	長距離走者にみられた大腿骨疲労骨折の2例.	中島 大輔、黒沢 一也、佐野 浩志、 星野 貴光、高岸 憲二	整形外科
関東膝を語る会誌. 26(1):9-14,2010	PCL損傷に脛骨プラトー前縁の圧迫骨折(rim compression fracture)を合併した膝過伸展損傷と思われる2症例.	山口 蔵人、小林 保一、大澤 貴志、 上村 民子、徳永 建路、清水 雅樹、	整形外科
関東整形災害外科学会 雑誌.41(6):369- 373,2010	骨密度の低下を伴わない大腿骨頸部脆弱性骨折の1例	金澤 紗恵子、篠 崎 哲也、高岸 憲 二	整形外科
日本手外科学会雑誌: 26(6):534-536,2011	可動域制限を有する狭窄性屈筋腱鞘炎(ばね指)に対するトリアムシロン腱鞘内注射の有効性	中島 大輔、黒沢 一也、佐野 浩志、 星野 貴光、高岸 憲二	整形外科
JOSKAS.36(1):54- 55,2011	過伸展膝に対する解剖学的二重前十字靭帯再建術の成績 脛骨骨孔位置の影響について	斎藤 健一、畑山 和久、寺内 正紀、 柳澤 真也、高岸 憲二	整形外科
JOSKAS.36(1):144- 145,2011	膝関節後外側支持機構(PLC)に対する再建術術後成績の検討(Larson法)	大澤 貴志、木村 雅史、小林 保一、 上村 民子、徳永 建路、萩原 敬一、	整形外科
臨床整形外 科.46(2):181-185,2011	画像所見で大腿骨骨腫瘍と診断されたSAPHO症候群の3例	土田 ひとみ、篠 崎 哲也、高岸 憲 二	整形外科
Biochem Biophys Res Commun. 401(3):385- 389, 2010	Requirement of SIRPα for protective immunity against Leishmania major.	Morimoto N, Murata Y, Motegi SI, Suzue K, Saito Y, Okazawa H.	皮膚科

Exp Dermatol. 19(8):e111-116, 2010	Induction of matrix metalloproteinase-1 by small interfering RNA targeting connective tissue growth factor in dermal fibroblasts from patients with systemic sclerosis.	Ishibuchi H, Abe M, Yokoyama Y, Ishikawa O.	皮膚科
J Dermatol.37(8):718-721, 2010	Successful treatment of combination therapy with tacalcitol lotion associated with sunscreen for localized Darier's disease.	Abe M, Yasuda M, Yokoyama Y, Ishikawa O	皮膚科
Eur J Dermatol. 20(2):208-210, 2010	Fatal interstitial pneumonia in juvenile dermatomyositis.	Nagai Y, Mizuno T, Yoshizawa C, Ishikawa O	皮膚科
Acta Derm Venereol 90(1):73-76, 2010	Lichenoid drug eruption with palmoplantar hyperkeratosis due to imatinib mesylate: a case report and a review of the literature.	Kuraishi N, Nagai Y, Hasegawa M, Ishikawa O.	皮膚科
J Dermatol 37(10): 913-5, 2010	Successful treatment of disseminated superficial porokeratosis with tacalcitol lotion.	Abe M, Yokoyama Y, Ishikawa O	皮膚科
Eur J Dermatol. 20(3):401-2, 2010	Eosinophilic panniculitis and hypereosinophilia caused by hypersensitivity to calcium heparin.	Yasuda M, Abe M, Yamanaka M, Amano H, Tamura A, Ishikawa O	皮膚科
The Journal of Neuroscience 30(31):10472-10483, 2010	Stress-Evoked Tyrosine Phosphorylation of Signal Regulatory Protein α Regulates Behavioral Immobility in the Forced Swim Test	Hiroshi Ohnishi, Takaaki Murata, Nobuhiko Furuya, Takashi Matozaki	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
耳鼻臨床 103 : 9 ; 833 ~838, 2010	急性喉頭蓋炎の臨床統計: 気管切開に関連する因子	村田考啓 室井昌彦 古屋信彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
The laryngoscope, 121, 1274-1280, 2011	A new and less invasive procedure for arytenoid adduction surgery: Endoscopic-assisted Arytenoid Adduction Surgery.	Murata T., Yasuoka Y., Shimada T., Shino M., Iida H.,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Am J Otolaryngol. 2011 Feb 14.	Angiotensin II receptor blocker-induced angioedema in the oral floor and epiglottis.	Shino M, Takahashi K, Murata T, Iida H, Yasuoka Y, Furuya	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
小児外科(0385-6313)43 巻3号 Page283-287(2011.03)	喉頭気管分離術(気管弁法)の術式とその利点	安岡義人, 二宮洋, 紫野正人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Natl Acad Sci USA 107: 21778-21783, 2010	Francesconi A.Caveolin-1 knockout mice exhibit impaired induction of mGluR-dependent long-term depression at CA3- CA1 synapses.Proc	Takayasu Y, Takeuchi K, Kumari R, Bennett MV, Zukin RS	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Journal of Neuroscience 30:694-702, 2010	Dysregulation of mTOR signaling in fragile X syndrome.	Sharma A, Hoeffler CA, Takayasu Y, Miyawaki T, McBride SM,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Journal of Neuroscience 30:242-254, 2010	SNAP-25 is a target of protein kinase C phosphorylation critical to NMDA receptor trafficking.	Lau CG, Takayasu Y, Rodenas-Ruano A, Paternain AV,	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Auris Nasus Larynx, 2011	Sentinel node biopsy for oral and laryngopharyngeal squamous cell carcinoma: A retrospective study of 177 patients in Japan.	Yoshimoto S, Takahashi K, Kitano H. et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
臨床と研究 2010; 87:1066-1072	【危険な頭痛とめまいの診療】めまいの緊急検査と処置	岡宮智史, 高橋克昌, 古屋信彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
BMC Med Inform Decis Mak. 2010 Jun9;10:33.	Essential pre-treatment imaging examinations in patients with endoscopically-diagnosed early gastric cancer.	Horisoko E, Tsushima Y, Taketomi-Takahashi A,	核医学科
Ann Nucl Med 24:77-82, 2010.	Additional value of integrated PET/CT over PET alone in the initial staging and follow up of head and neck malignancy.	Ishikita T, Oriuchi N, Higuchi T, Miyashita G, Arisaka Y, Paudyal	核医学科

小計18

Nuclear Medicine and Biology 37:911-916, 2010.	Comparison of L-type amino acid transporter 1 expression and L-[3-18F]- α -methyl tyrosine uptake in outcome of non-small cell lung cancer.	Kaira K, Oriuchi N, Shimizu K, Imai H, Tominaga H, Yanagitani N,	核医学科
AJR 195(5):1204-1211, 2010.	Assessment of therapy response in lung cancer with 18F- α -methyl tyrosine PET.	Kaira K, Oriuchi N, Yanagitani N, Sunaga N, Ishizuka T, Mori M, Endo	核医学科
Bioconjug Chem 21:2031-2037, 2010.	Enhanced target-specific accumulation of radiolabeled antibodies by conjugating arginine-rich peptides as anchoring molecules.	Miyamoto R, Akizawa H, Nishikawa T, Uehara T, Azuma	核医学科
Ann Nucl Med 24:279-584, 2010.	18F-FAMT uptake correlates with tumor proliferative activity in oral squamous cell carcinoma: comparative study with 18F-FDG	Miyashita G, Higuchi T, Oriuchi N, Arisaka Y, Hanaoka H,	核医学科
Cancer Sci 101(4):1045-1050, 2010.	Imaging and biodistribution of Her2/neu expression in non-small cell lung cancer xenografts with 64Cu-labeled trastuzumab PET.	Paudyal P, Paudyal B, Hanaoka H, Oriuchi N, Iida Y,	核医学科
The British Journal of Radiology 83:336-343, 2010.	The role of the ADC value in the characterization of renal carcinoma by diffusion-weighted MRI.	Paudyal B, Paudyal P, Tsushima Y, Oriuchi N, Amanuma M,	核医学科
Ann Surg Oncol. 17:3181-3186, 2010.	18F-FAMT-PET is useful for the diagnosis of lymph node metastasis in operable esophageal squamous cell carcinoma.	Sohda M, Kato H, Suzuki S, Tanaka N, Sano A, Sakai M, Inose T,	核医学科
THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 60(1):1-8, 2010.	F-18-FDG Positron Emission Tomography Findings Correlate Pathological Proliferative Activity of Oral Squamous Cell Carcinoma.	Toyoizumi O, Oriuchi N, Miyakubo M, Ishikita T,	核医学科
BMC Med Imaging 10:24, 2010.	Radiation exposure from CT examinations in Japan.	Tsushima Y, Taketomi-Takahashi A, Takei H, Otake H, Endo	核医学科
J Nucl Med 51(9):1472-1479, 2010.	PET imaging of norepinephrine transporter (NET)-expressing tumors using 76Br-meta-bromobenzylguanidine (76Br-MBBG).	Watanabe S, Hanaoka H, Liang JX, Iida Y, Endo K, Ishioka N.	核医学科
Neuroradiology 52:1101-1109, 2010.	Added value of contrast-enhanced CISS imaging in relation to conventional MR images for the evaluation of intracavernous cranial nerve lesions.	Yagi A, Sato N, Takahashi A, Morita H, Amanuma M, Endo	核医学科
J Obstet Gynaecol Res	Lymphangiomyomatosis suspected to be a gynecologic disease.	Yamashita S, Nakamura K, Shinozaki H, Minegishi T	産科婦人科
Pathol Oncol Res	Clusterin expression inversely correlates with chemosensitivity and predicts poor survival in patients with locally advanced cervical cancer treated with cisplatin-based neoadjuvant	Watari H, Kanuma T, Ohta Y, Hassan MK, Mitamura T, Hosaka M,	産科婦人科
Int J Oncol	A new system for regulated functional gene expression for gene therapy applications: nuclear delivery of a p16INK4A-estrogen receptor carboxy terminal fusion protein only in the	Tamura T, Kanuma T, Nakazato T, Faried LS, Aoki H, Minegishi T	産科婦人科
Gynecol Obstet Invest	Plasma Adrenomedullin Levels during Multiple Pregnancy.	Shinozaki H, Aoki H, Kasahara Y, Kangawa K, Minegishi T	産科婦人科
臨床麻酔 34:1003-1008, 2010.	麻酔覚醒時でのランジオロール持続投与の効果—各手術部位別による効果の相違—	堀内辰男、徳江彩、内田慎也、門井雄司、斉藤繁	麻酔科蘇生科
日本臨床麻酔学会誌 30:237-246	「若年高血圧患者では麻酔覚醒時の心拍数に対するランジオロール効果を減弱させる」	門井雄司、堀内辰男、内田慎也、齋藤繁、佐藤淳、高橋健一郎	麻酔科蘇生科
麻酔59巻930-934, 2010	麻酔覚醒時におけるランジオロール持続投与の効果—群馬県内多施設共同研究—	堀内辰男、内田慎也、門井雄司、斉藤繁、佐々木正行、吉川大輔、菅	麻酔科蘇生科

Anesth Analg 111:763-7	Percutaneous radio-frequency mandibular nerve rhizotomy guided by high-speed real-time CT fluoroscopy.	Koizuka S, Saito S, Tobe M, Sekimoto K, Obata H and Koyama Y	麻醉科蘇生科
Neuroreport 21: 427-431	Sweet taste-induced analgesia: an fMRI study	Kakeda T, Ogino Y, Moriya F, Saito S	麻醉科蘇生科
J. Physiol., 588:2571-2587, 2010	Glycinergic and GABAergic tonic inhibition fine tune inhibitory control in regionally distinct subpopulations of dorsal horn neurons.	Takazawa TU, MacDermott AB	麻醉科蘇生科
Ann. NY Acad. Sci., 1198, 153-158	Synaptic pathways and inhibitory gate in the spinal cord dorsal horn.	Takazawa TU, MacDermott AB	麻醉科蘇生科
Anesthesiology 112:1473-81	Long-term effect of sciatic nerve block with slow-release lidocaine in a rat model of postoperative pain.	Tobe M, Obata H, Suto T, Yokoo H, Nakazato Y, Tabata Y, Saito S	麻醉科蘇生科
Neuropharmacology 2011 Apr 7	The influence of manipulations to alter ambient GABA concentrations on the hypnotic and immobilizing actions produced by sevoflurane, propofol, and midazolam.	Nishikawa K, Kubo K, Obata H, Yanagawa Y, Saito S	麻醉科蘇生科
Cardiovasc Ultrasound. 2010; 8:52	Regurgitant leak from the area between the stent post and the sewing ring of a stented bovine pericardial valve implanted in the aortic valve position.	Kuroda M, Sudo T, Koizuka S, Nishikawa K, Kadoi Y, Saito S	麻醉科蘇生科
J Pharmacol Exp Ther. 334:1059-65	Monoamine-dependent, opioid-independent antihypersensitivity effects of intrathecally administered milnacipran, a serotonin noradrenaline reuptake inhibitor, in a	Obata H, Kimura M, Nakajima K, Tobe M, Nishikawa K, Saito S	麻醉科蘇生科
Brain Res.1352:83-93	Lack of analgesic efficacy of spinal ondansetron on thermal and mechanical hypersensitivity following spinal nerve ligation in the rat.	Peters CM, Hayashida K, Ewan EE, Nakajima K, Obata H, Xu Q,	麻醉科蘇生科
Brain Res 1363:72-80.	Activation of astrocytes in the spinal cord contributes to the development of bilateral allodynia after peripheral nerve injury in rats.	Obata H, Sakurazawa S, Kimura M, Saito S	麻醉科蘇生科
Tissue Eng Part C Methods.17:131-44	Nontoxic genetic engineering of mesenchymal stem cells using serum-compatible pullulan-spermine/DNA anioplexes.	Thakor D, Teng YD, Obata H, Nagane K, Saito S, Tabata Y	麻醉科蘇生科
J Anesthesia. 25:10-17	Preoperative depression is a risk factor for postoperative short-term and long-term cognitive dysfunction in patients with diabetes mellitus	Kadoi Y, Kawauchi C, Ide M, Kuroda M, Takahashi K, Saito S, Mizutani	麻醉科蘇生科
J Anesthesia. 24: 587-593	Differential effects of hyperventilation on cerebral blood flow velocity after tourniquet deflation during sevoflurane, isoflurane or propofol anesthesia	Hinohara H, Kadoi Y, Ide M, Kuroda M, Saito S, Mizutani A	麻醉科蘇生科
J Anesthesia. 24: 553-563	Comparison of the effects of vasopressin and norepinephrine on organ perfusion during septic shock in streptozotocin-induced diabetic rats	Hinohara H, Kadoi Y, Tokue A, Saito S, Kawauchi C, Mizutani A	麻醉科蘇生科
J Anesthesia. 24:272-276	Effects of landiolol on left ventricular function during electroconvulsive therapy -A transthoracic echocardiographic study	Ide M, Kadoi Y, Saito S, Takahashi K, Sawano Y, Miyazaki M,	麻醉科蘇生科
Neurol Res(2010) 32: 472-475	Familial amyloid polyneuropathy (Finnish type) presenting multiple cranial nerve deficits with carpal tunnel syndrome and orthostatic hypotension.	Makioka K, Ikeda M, Ikeda Y, Nakasone A, Osawa T, Sasaki	脳神経内科
Int J Neurosci(2010) 120: 168-175	Transforming growth factor β 2 levels are elevated in neurons of Alzheimer's disease's brain.	Noguchi A, Nawa M, Aiso S, Okamoto K, Matsuoka M	脳神経内科
Neuropathology (2010) 30; 189-193	Pathology of protein synthesis and degradation system in ALS	Okamoto K, Fujita Y, Mizuno Y	脳神経内科

Neuropathology May 24, 2010	Ubiquitin-positive tau-negative intraneuronal inclusions in dementia with motor neuron disease	Okamoto K	脳神経内科
J Neurol Sci(2010) 296; 59-63	A Japanese ALS6 family with mutation R521C in the FUS/TLS gene: a clinical, pathological and genetic report	Yamamoto-Watanabe Y, Watanabe M, Okamoto K, Fujita	脳神経内科
群臨衛技会誌 第49巻2号	全自動血液凝固分析装置コアプレスタ2000の基礎的検討	町田真依子、神山知沙子、早川昌基、静怜子、天谷初夫、村上正巳	検査部
群臨衛技会誌 第49巻2号	多項目自動血球分析装置XE-2000における血小板測定の見直し	溝口美由紀、天谷初夫、神山知沙子、早川昌基、静怜子、村上正巳	検査部
群臨衛技会誌 第49巻2号	医学部新入生におけるウイルス抗体保有率の検討	渡邊瑠美、小林良乃、須藤千秋、澤田裕也、天谷初夫、村上正巳	検査部
群臨衛技会誌 第49巻2号	抗MtCK活性阻害抗体を使用した新しい血清中CKMB活性測定試薬の有用性の検討	町田哲男、太田由佳、古田島伸雄、天谷初夫、村上正巳	検査部
群臨衛技会誌 第49巻2号	多項目自動血球分析装置XE-2000による有核赤血球の定量測定の見直し	太田由佳、天谷初夫、神山知沙子、早川昌基、静怜子、村上正巳	検査部
医療と検査機器・試薬 第33巻第5号	腫瘍マーカーを用いた全自動化学発光酵素免疫測定装置「ルミパルスG1200」の評価	須藤千秋、小林良乃、渡邊瑠美、澤田裕也、天谷初夫、村上正巳	検査部
医学と薬学 第63巻第3号	ユニキャップエリアを用いた抗ENA抗体(U1RNP, S m, SS-A/Ro, SS-B/Ra, Scl-70)測定の評価	須藤千秋、小林良乃、渡邊瑠美、町田真依子、天谷初夫、村上正巳	検査部
日本臨床検査自動化学会誌 第35巻第1号	電気化学発光免疫測定法(ECLIA)を用いた甲状腺刺激ホルモン受容体抗体(TRAb)測定の見直し	古田島伸雄、天谷初夫、村上正巳	検査部
医学検査 第59巻第11号	動脈硬化の危険因子保有数と血液レオロジーとの関連についての検討	福島美野子、武市藍、遠藤夢乃、古田島伸雄、町田哲男、天谷初夫、角	検査部
脂質生化学研究 第52巻	リポホスファチジン酸による血管内皮細胞のVEカドヘリンのトランスロケーション制御機構	木村孝穂、村上正巳	検査部
適応医学 第13巻第2号	MC-FANを用いて測定した血液流動性とライフスタイルについて	関耕二、角野博之、村上正巳	検査部
J Int Med Res.	Blood rheology and the low-density lipoprotein cholesterol/high-density lipoprotein cholesterol ratio in dyslipidaemic and normolipidaemic subjects	Machida T, Sumino H, Fukushima M, Kotajima N, Amagai H,	検査部
Endocr Metab Immune Disord Drug Targets	Cross-talk between exogenous statins and endogenous high-density lipoprotein in anti-inflammatory and anti-atherogenic actions	Kimura T, Sato K, Tomura H, Okajima F	検査部
Eur J Pediatr.	Increased type 3 iodothyronine deiodinase activity in a regrown hepatic hemangioma with consumptive hypothyroidism	Bessho K, Etani Y, Ichimori H, Miyoshi Y, Namba N, Yoneda A,	検査部
J Int Med Res	Influence of thyroid hormones and transforming growth factor-β1 on cystatin C concentrations.	Kotajima N, Yanagawa Y, Aoki T, Tsunekawa K, Morimura T,	検査部
J Biol Chem	Mechanism and role of high density lipoprotein-induced activation of AMP-activated protein kinase in endothelial cells.	Kimura T, Tomura H, Sato K, Ito M, Matsuoka I, Im DS, Kuwabara A, Mogi	検査部

Endocr J	Oxidative stress associated with rapid weight reduction decreases circulating adiponectin concentrations.	Yanagawa Y, Morimura T, Tsunekawa K, Seki K, Ogiwara T,	検査部
Int Heart J.	Effects of raloxifene on brachial arterial endothelial function, carotid wall thickness, and arterial stiffness in osteoporotic postmenopausal women.	Sumino H, Ichikawa S, Kasama S, Takahashi T,	検査部
Geriatr Gerontol Int.	Effects of raloxifene on the renin-angiotensin-aldosterone system and blood pressure in hypertensive and normotensive osteoporotic postmenopausal women.	Sumino H, Ichikawa S, Kasama S, Takahashi T,	検査部
J Infect Chemother.	Antibacterial activity of carbapenems against clinical isolates of respiratory bacterial pathogens in the northeastern region of Japan in 2007.	Gomi K, Fujimura S, Fuse K, Takane H, Nakano Y, Kariya Y, Kikuchi	感染制御部
J Mol Diag 2010; 12 (1) 118-24	Usefulness of Peptide Nucleic Acid (PNA)-clamp Smart Amplification Process Version 2 (SmartAmp2) for Clinical Diagnosis of KRAS Codon12 Mutations in Lung Adenocarcinoma: Comparison of PNA-clamp SmartAmp2	Araki T, Shimizu K, Nakamura K, Nakamura T, Mitani Y, Ohayashi K, Fujita	薬剤部
J Mol Diag 2010; 12 (2) 257-64	Mutation Detection of Epidermal Growth Factor Receptor and KRAS Genes Using the Smart Amplification Process Version 2 from Formalin-Fixed, Paraffin-Embedded Lung Cancer Tissue	Miyamae Y, Shimizu K, Mitani Y, Araki T, Kawai Y, Baba M, Kakagawa S, Sugano	薬剤部
J Chemother 2010; 22 (3) 186-190	Pharmacokinetic individualization of high-dose methotrexate chemotherapy for the treatment of localized osteosarcoma.	Fujita Y, Nakamura T, Aomori T, Nishiba H, Shinozaki T, Yanagawa T,	薬剤部
Hypertens Res. 2010; 33 (7): 670-677	J-HOME-Elderly study group: Electrocardiographic abnormalities and home blood pressure in treated elderly hypertensive patients: Japan home versus office blood pressure measurement evaluation in the elderly (J	Shibamiya T, Obara T, Ohkubo T, Shinki T, Ishimura K, Yoshida M, Satoh M,	薬剤部
Clinica Chimica Acta 2010; 411 (17-18): 1375-1377	Standard warfarin dose in a patient with the CYP2C9*3/*3 genotype leads to hematuria.	Goto T, Miura M, Murata A, Terada K, Uno T, Yamamoto K, Abo Y,	薬剤部
Pharm. Bull. 2010; 33 (8): 1407-1412	Membrane transport mechanisms of quinidine and procainamide in renal LLC-PK (1) and intestinal LS180 cells. Biol.	Masago M, Takaai M, Sakata J, Horie A, Ito T, Ishida K, Taguchi M, Hashimoto Y,	薬剤部
Biol. Pharm. Bull. 2010; 33 (10): 1751-1753	Association of the A1438G polymorphism in serotonin 2A receptor in migraine with Aura and Japanese patients.	Naito Y, Ishii M, Nagamine A, Imagawa A, Shida K, Takahashi J, Hosaka	薬剤部
Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 2010; in press.	Mechanisms responsible for the different uptakes of mizoribine and ribavirin in human epithelial LS180 cells.	Ishida K, Takaai M, Yotsutani A, Yokota A, Sakamoto T, Taguchi M,	薬剤部
Exp Opin Drug Saf 2010; 9 (3) 447-57	Inosine triphosphate pyrophosphatase 94C>A polymorphism: clinical implications for patients with systemic lupus erythematosus treated with azathioprine.	Yamamoto K, Okada Y, Nakamura K, Hiromura K, Nojima Y, Nakamura T,	薬剤部
医療薬学 2010; 36 (8) 599-604	入院患者持参役を含む内服指示書作成システムの確立	金田亜季子, 大林恭子, 阿部正樹, 飯塚恵子, 中村智徳, 山本康次郎	薬剤部
末梢神経, 第21巻78-83, 2010	シャルコー・マリー・トゥース病患者とQOL	大竹弘哲	リハビリテーション部
Journal of clinical rehabilitation	脳幹出血後遅発性に咽頭口蓋ミオクローヌスが生じ誤嚥性肺炎を来した1例	田澤昌之	リハビリテーション部
理学療法ジャーナル, 第44巻第6号	地域連携の中での呼吸ケアチーム医療と理学療法士の役割	長谷川信	リハビリテーション部
群馬県医学会, NO91, 153-156, 2010	転倒による骨折にて複数回の手術を要しリハビリテーションに難渋した大腿骨骨折の一例	大塚健一	医学系研究科リハビリテーション医学分野

大阪臨床整形外科医会 会報, 第36号, 125- 127, 7月, 2010	スポーツ障害のリハビリテーション-運動連鎖の調 整-	白倉賢二	医学系研究科リハ ビリテーション医学 分野
理学療法群馬, No.21, 35-39, 2010	投球障害肩に対してゼロポジション外旋筋力およ びwind upからの運動伝達に着目した一症例	高橋和弘	リハビリテーション 部
Medical Practice10 文光堂, 2010.10.1, 1727-1731	「骨関節疾患のリハビリテーション」	白倉 賢二	医学系研究科リハ ビリテーション医学 分野
Journal of Physical Therapy Science 23, 161 -169, 2011	Differential Responses of Myogenic C2C12 Cells to Hypoxia between Growth and Muscle-Induction Phases: Growth, Differentiation and Motility	KAORI SATO	医学系研究科リハ ビリテーション医学 分野

小計4

合計236

- 注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長：野島 美久
管理担当者氏名	総務課長：福田 美則 医療サービス課長：小出 利一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療サービス課、医療情報部	電子カルテにより管理している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		紙媒体のファイルを保管・管理している。(医療サービス課)	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課		
	高度の医療の研修の実績			
	閲覧実績			
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課、薬剤部		
	第規一則号第一に掲げる十の確項及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課	紙媒体のファイルを保管・管理している。(医療サービス課)
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課		
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課		
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療サービス課		
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課		
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	材料部 放射線部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	材料部 放射線部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	材料部 放射線部		

紙媒体のファイルを保管・管理している（医療サービス課）

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長：野島 美久
閲覧担当者氏名	総務課長：福田 美則
閲覧の求めに応じる場所	医学部大会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	1	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	81.89%	算定期間	平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		15,110 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,702 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,019 人
	D：初診の患者の数		22,063 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">当院における安全管理の基本的考え方：安全文化の育成医療安全を推進するための委員会等の設置職員に対する研修の基本方針事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針事故発生時の対応に関する基本方針情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針）患者相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療業務安全管理委員会：医療事故防止専門委員会からのインシデント報告書の分析結果等の報告を受け、分析結果や改善指摘事項等について協議するとともに、その改善事項等の決定及び各診療科等への改善命令等の決定を行う。医療事故防止専門委員会：具体的なインシデント・アクシデント報告書の内容分析を行い、改善事項等について審議し、その結果を上部委員会へ報告するとともに、決定された改善事項についてやテーマを設けての病棟等巡視点検を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 4 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<p>22年度は全体研修として「医療安全職員研修」（全6回）、「児童虐待予防講演会」，「CVC認定制度説明会」（全3回）、「感染対策講演会」（全2回）、「救命救急講習会」（全12回）を実施した。ほかに新入職者研修として前後期に内服薬・注射処方箋の書き方と読み方、麻薬管理など各5テーマを実施した。ほかに、新採用職員・研修医のオリエンテーションで、安全や感染に関する講演を行っている。原則的には全ての研修の内容がe-Learningで受講できるよう整備。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備（有）その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">各診療科，病棟等にリスクマネージャー93名を配置。月間強化テーマを設け医療事故防止専門委員による巡視。『医療安全情報』の閲覧確認簿の設置	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名)
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (4) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理部 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故発生時の即時対応 ・ インシデント・アクシデント報告書の即時調査、分析、管理 ・ 医療業務安全管理委員会、医療事故防止専門委員会、医療事故調査専門委員会、リスクマネージャー会議に関すること 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院感染対策に関する基本的な考え方 ・ 感染対策委員会及び感染制御部 ・ 職員研修 ・ 病院感染発生時の対応 ・ 病院感染対策マニュアル ・ 患者への情報提供と説明 ・ その他の病院感染対策の方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策の実施及び指導 ・ 感染対策に関する必要事項の検討 ・ 感染症の情報収集，整理，解析及び対策 ・ 感染症の解析結果の迅速な情報提供 ・ 感染症の継続的観察及び対策実施後の評価 ・ 感染症に関する啓発，講習，教育 ・ 感染防止のためのガイドライン及びマニュアルの整備 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 新採用職員研修（オリエンテーション）「検査部と感染予防対策について」 ・ 全体研修 感染対策講演会 「関東・甲信越ブロック別研修会」(NICU 病院感染予防のためのガイドライン等) ・ 全体研修 感染対策講演会 「感染症指定医療機関の備えについて」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の感染対策委員会，感染制御部運営委員会合同委員会の開始前に，テーマを決めて委員による院内の視察を行い，評価，改善指導を行っている。 ・ 長期使用抗菌薬の定期的調査を行っている。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 年度初め 新規採用全職員に対して医薬品安全使用のための講習会・ 年度初め 新入職看護師に対して医薬品の安全使用のための講習会・ 年度初め (3回) 新規採用者に対して医薬品安全使用のための講習会・ 1 1 月 後期新規採用職員に対して医薬品安全使用のための講習会	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有)・ 業務の主な内容：<p>院内で医薬品を安全に取り扱うための手順を見直し、平成 22 年 4 月、平成 22 年 10 月、平成 23 年 1 月に手順書を改訂した。各病棟の薬剤師が実施状況をチェックし、医薬品安全管理責任者が確認している。</p>	
⑤ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>医薬品安全にかかわる情報の収集、管理、提供については薬剤部 D I センターが担当している。病棟薬剤師と週に 1 回カンファレンスを行い、情報収集と提供に努めている。該当医薬品を使用している医師を特定し、迅速な情報提供と収集を行っている。さらに院内広報誌「D I ニュース」で院内の全職員に情報を伝えている。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 5 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 各装置ごとのマニュアルの周知	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (有)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> 毎日の始業・終業点検<input type="radio"/> 定期的 (2 回以上 / 年) なメーカーによる点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> 電話回線によるメンテナンスの報告<input type="radio"/> 毎日の始業・終業	